

学習指導要領改訂の趣旨を踏まえた

# 授業のデザイン

新学習指導要領では、生きる力を育むことを目指し、基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を育むとともに、主体的に学習に取り組む態度を養うことが示されています。本紙は、改訂の趣旨を踏まえた授業の例などを示しています。各学校において、自校の年間指導計画や生徒の実態等を踏まえ、確かな学力を身に付けさせる授業をデザイン（構想）するための参考資料として御活用ください。



## 中学校・国語



### 国語科の目標及び学習指導要領改訂のポイント

#### 1 国語科の目標

国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を養い言語感覚を豊かにし、国語に対する認識を深め国語を尊重する態度を育てる。

#### 2 学習指導要領改訂のポイント

##### ◇目標及び内容の構成

- ・内容の構成の改善：「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の3領域と〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕に改めた。
- ・目標と内容を学年ごとに示した。

##### ◇学習過程の明確化

- ・指導事項について学習過程を一層明確化した。

##### ◇言語活動の充実

- ・基礎的・基本的な知識・技能を活用して課題を探究することのできる国語の能力を身に付けることができるよう、内容の（2）に社会生活に必要なとされる言語活動を具体的に例示した。

##### ◇学習の系統性の重視

##### ◇伝統的な言語文化に関する指導の重視

##### ◇読書活動の充実

##### ◇漢字指導の内容の改善

##### ◇書写の指導の改善

### 事例と関連のある本県の重点とする目標

－「指導の指針」より 栃木県教育委員会－

- 単元を貫く言語活動を通した指導事項の指導
- 「読むこと」の指導の充実
- 基礎的・基本的な事項の定着
- 指導と評価の一体化
- 学校図書館や情報機器の効果的な活用

#### 【参考文献】

- ・「中学校学習指導要領解説 国語編」 文部科学省 平成20年9月
- ・「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料【中学校 国語】」 国立教育政策研究所 平成23年11月
- ・「指導の指針」 栃木県教育委員会 平成25年3月
- ・「言語活動の充実に関する指導事例集【中学校版】」 文部科学省 平成24年6月

◇本リーフレットは栃木県総合教育センターホームページ(<http://www.tochigi-edu.ed.jp/center/>)から、ダウンロードできます。

◇問い合わせ先 栃木県総合教育センター研究調査部 TEL028-665-7204

「読むこと」の単元では、場面ごとに丁寧に登場人物の言動の意味などを考えさせる授業が散見されます。こうした授業だけでは確かな国語の能力を身に付けさせるのに十分ではありません。そこで、生徒が学習の見通しをもって主体的に課題解決に取り組む「読むこと」の授業づくりが求められています。

ここでは、朗読の言語活動を通して「読むこと」の指導事項を指導する事例を紹介します。

指導のねらい

※本単元のねらいは複数ありますが、重要なものに焦点化しました。

場面の展開や登場人物などの描写に注意して読み、内容の理解を深めることができるようにする。

<学習指導要領との関連>

【第1学年】「C 読むこと」

ウ 場面の展開や登場人物などの描写に注意して読み、内容の理解に役立てること。

オ 文章に表れているものの見方や考え方をとらえ、自分のものの見方や考え方を広くすること。

(言語活動) 印象に残った場面を朗読すること。

単元の例

教師の肉声、朗読CD、朗読発表会の映像資料等を視聴させることにより、意欲を喚起したり活動のイメージをもたせたりすることができます。

※「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料【中学校 国語】」の事例3を参考としています。

○教材例：さんちき（「新しい国語1」東京書籍）

時	主な学習活動	指導上の留意点
1	○朗読発表会の概要を聞き、学習の見通しをもつ。 ○全文を通読し、話の展開や内容の大体をつかむ。	・ねらいを示すとともに、別の文章を教師が朗読をすることにより、学習の見通しをもたせる。
2	○印象に残った場面から朗読するところを決める。	<p>「読み取る」設問①～③を参照させる。</p> <p>・教科書に符号を書き込むのではなく、ワークシートを利用させる。</p> <p>全ての文の全ての語句について、記号を書き込む生徒が多いので、特に注意するところ（例えば、登場人物の心情が表れているところ）に重点化して書き込ませましょう。</p> <p>・朗読の仕方を決める上での解釈を明らかにさせる。</p> <p>・小学校での既習事項を踏まえて、声の出し方の具体的な工夫（緩急、強弱、抑揚、間のとり方等）について考えさせる。</p>
3	○選んだ場面の朗読の仕方について考える。 ①個人②グループ（同じ場面を選んだ人同士で朗読の仕方とその理由を交流する）	
	<p>「この部分は〇〇なので、小さな声でゆっくりと読んだ方がいいと思います。」などのように、表現を根拠に発表させます。一人一人の解釈の交流を通して、自分の読みを深めていくことができます。</p> <p>シートには、声の出し方の工夫に加え、そのように読む理由を書くようにさせます。</p>	
4	○「朗読発表会」を開き、朗読を発表しあう。	<p>・朗読の冒頭に、最も工夫した箇所とそう読む理由を説明させる。</p> <p>・気付いたことについて全体で話し合わせ、教師が生徒の意見をつなぎながら、三吉の成長や親方の優しさについて気付かせるようにする。</p>
5	○朗読を通して感じたこと、考えたことを振り返る。 ○「考えを深める」設問に取り組む。	

評価に当たって

○ワークシートへの記入状況から評価します。朗読の仕方が本文の叙述を根拠としているかどうか注目することが大切です。もちろん、上手に朗読する生徒に対しては大いに称賛しましょう。

留意点及び工夫点

○授業で朗読を扱う際に、朗読の力の育成だけを目的とする傾向があります。しかし、ここでは、朗読を通して読みを深めることを目的としているため、朗読の仕方について検討する過程を大切にします。

○詩や古典の学習にも音読や朗読を取り入れることは効果的です。

## キーワード

話すこと・聞くこと 伝統的な言語文化(古典) 資料や機器の活用

これまで、「読むこと」の中で古典を扱っていました。新学習指導要領では3領域と「伝統的な言語文化」に関連させた指導が求められています。ここでは、「話すこと・聞くこと」の中で古典を扱う事例を紹介します。

## 指導のねらい

※本単元のねらいは複数ありますが、重要なものに焦点化しました。

古典について調べた内容を、資料や機器を活用して分かりやすく話すことができるようにする。

### <学習指導要領との関連>

#### 【第2学年】

#### 「A 話すこと・聞くこと」

ウ 目的や状況に応じて、資料や機器などを効果的に活用して話すこと。

#### 「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」

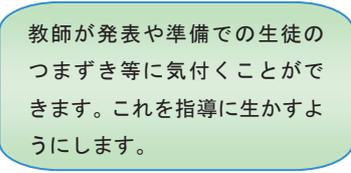
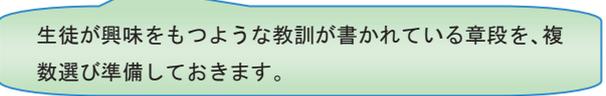
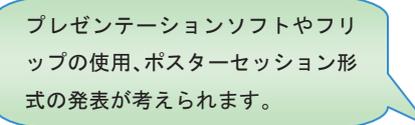
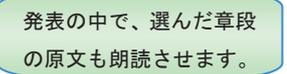
(1) ア(ア) 作品の特徴を生かして朗読するなどして、古典の世界を楽しむこと。

(言語活動) 徒然草を読んで調べたことなどについて発表すること。

## 単元の例

『資料や機器などを効果的に活用』するのは、話の要点を明らかにし聞き手に分かりやすくするためです。ここでは、調べたり考えたりする対象を古典としました。古典は現代文に比べて内容の理解などが難しいため、発表する際には、聞き手にとってより分かりやすくなる方法(資料や機器)が効果的です。

○教材例：徒然草(仁和寺にある法師、猫また、神無月のころ 等)

時	主な学習活動	指導上の留意点
1	○学習の見通しをもつ。 ○原文と現代語訳を音読する。 	・教師が発表のモデルを示す。 ・原文と現代語訳をいくつかの読み方〔教師一文読み→同じ箇所の生徒一文読み、一文ずつ交互読み(男女、列等)、原文一文読み→現代語訳一文読みなど〕で繰り返し読ませる。
2	○発表する章段を選び、内容を調べる。 	・同じ章段を選んだ生徒同士でグループを組ませ、登場人物の行動や場面の様子等についてよりよく理解できるように背景等を調べさせる。 ・兼好法師の思いに対する考えを明確にもたせる。
3	○選んだ章段について、調べたことや兼好法師の思いに対する考えを発表する原稿及び補助資料を作成する。  	・これまで(小学校を含む)に習得したことを踏まえながら、分かりやすく説明するための観点を出示させる。 ・調べたことを明確に伝えられるように発表原稿を作成させる。 ・機器を使ったり写真等の資料を示したりする際に、何をどのように使うと効果的か個人で考えさせ、それについて友達と話し合わせる。
4・5	○発表会を行う。 	・聞き手には、話の構成や内容に注意させ、質問を考えながら聞かせる。

## 評価に当たって

○「資料や機器を効果的に活用して分かりやすく話している」ことについては、リハーサルの場面で評価することも考えられます。

○自己(相互)評価を行う際には、分かりやすく説明するための観点をチェック項目とします。「大きな声ではっきりと話せた」が最初に示される傾向がありますが、単元や本時のねらいに即した項目を重視します。

## 留意点及び工夫点

○教師が、徒然草関連の文献や図書等の資料を学校図書館や公立図書館等で前もって収集しておくことによって、生徒の資料作成を支援します。その際、司書教諭や学校図書館担当職員との連携を図ることが大切です。

## キーワード

書くこと 批評 引用

「書くこと」の言語活動例の一つに「批評」があります。学習過程を工夫して批評文を書かせることを通して「説得力のある文章を書く」力を身に付けさせていく事例を紹介します。

### 指導のねらい

※本単元のねらいは複数ありますが、重要なものに焦点化しました。

自分が関心のある事柄について、論理の展開を工夫し資料の一部を適切に引用して、説得力のある批評文を書くことができるようにする。

#### <学習指導要領との関連>

##### 【第3学年】「B 書くこと」

イ 論理の展開を工夫し、資料を適切に引用するなどして、説得力のある文章を書くこと。

(言語活動) 社会生活の中で関心のあることについて批評文を書くこと。

### 単元の例

3年「読むこと」の言語活動例に「物語や小説などを読んで批評する言語活動」があるため、ここでは対象から「物語や小説」を除きました。

○教材例：「観察・分析して論じよう」（「新しい国語3」東京書籍）

「説得力のある考えを述べよう」（「国語1」光村図書）

時	主な学習活動	指導上の留意点
1	○学習の見通しをもつ。 ○社会生活の中で関心のある事柄を選択する。 (批評の対象の例：雑誌広告、環境問題に関する新聞記事、興味をもっている進路先のウェブページ、自分の住んでいる地域の未来について 等)	・教師が批評文のモデルを示す。 ・『「自分」と「読み手」の関心』という観点で思い浮かぶ事柄を付箋に書かせ、それらを整理させる。
2	○選択した事柄を観察・分析する。 複数の対象を比較する際には、比較の観点をいくつか考えさせて、その中から適切な観点を絞り込むようにさせます。	・重要と捉えた分析の観点を友だちと見せ合い、より適切な観点について話し合うようにさせる。 ・分析の観点に基づいた事柄の特徴（長所と短所）をメモさせる。
3	○判断の根拠となる情報を集め、整理する。 	・学校図書館、インターネット等を利用し、自分の考えの根拠となる資料を集めさせ、付箋に書かせる。 インターネットだけでなく、本や新聞などの客観性や信頼性の高い資料にもあたらせるようにしましょう。
4	○批評文を書く。	・まとめごとを書く内容をワークシートにまとめさせる。
5	・結論やその理由を明確に示すことができる頭括型や双括型の構成を紹介します。 資料の一部を引用する際には、「 <input type="text"/> 」でくくること、適切な量で引用することなどを押さえておきます。	・第3時に書いた付箋の中から必要なものを選び、ワークシート内の「補強すべき考え」の欄に貼らせる。 ・「ワークシート→下書き→清書」と段階を追って書かせる。
6	○批評文を読み合う。	・説得力を高める工夫等で参考になる点に注目し、読み合い、話し合うように助言する。

### 評価に当たって

○完成した批評文について、「意見とそれを支える根拠」「資料の引用」の適切さに注目し、評価規準を設定することが大切です。

### 留意点及び工夫点

○「『批評』とは、対象とする事柄について、そのもののよさや特性、価値などについて、論じたり、評価したりすること」です。「批評」の定義と「批評文」の構成についてしっかりと押さえておくことが大切です。